

2022 年度事業計画

I. 調査研究事業部門

基本方針

情報通信技術の進展や健康志向、コンプライアンス志向の高まりなどに加えて、COVID-19 により、社会環境の変化は人々の価値観、人間関係、消費行動や個人の嗜好に大きな影響を及ぼしていると考えられる。それに伴い、たばこを始めとする酒、茶、コーヒーといった様々な嗜好品の社会的位置づけも変化している。これら嗜好品に関する諸情報と関連する社会の動きを読み解き、嗜好品の個人的・社会的・歴史的な存在の意味を考え、その研究成果を提供していくことの必要性はますます高まっている。TASC はこれに応えるため、嗜好品を手がかりに、現代における人間の嗜好、心理、欲求、価値観、行動及び個人と社会との関わり等について、心理学・社会学等の研究手法を用いた調査研究を継続的に実施する。また、嗜好品に関する人文・社会科学分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的に、大学等の研究者への助成を引き続き実施する。調査研究によって得られた成果については、学会発表、論文投稿を行い、あわせて、これに関する考察を財団機関誌や研究誌等の定期出版物、TASC ウェブサイトを通じて広く国民へ普及啓発を図る。

1. 調査研究事業

2022 年度に計画する主な調査研究は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

TASC が実施してきたこれまでの心理学及び社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する両領域の調査研究を実施する。それらの研究成果については、学会発表や学会誌への投稿を行うとともに、財団機関誌や TASC ウェブサイトにおいても積極的に普及啓発を行う。

(2) たばこ史・たばこ産業史研究

TASC に蓄積されたたばこ史に関連する資料を踏まえ、在野の研究者や大学等研究機関の研究者との連携を強化し、たばこ史・たばこ産業史研究を行う。

(3) 研究関連情報の整備

参考文献や研究報告書等、たばこを始めとする嗜好品に関する諸情報について研究関連業務への効果的な活用を図るため継続的な資料整備を実施する。

2. 研究助成事業

嗜好品に関する人文・社会科学等の分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的として、日本国内の大学・研究機関等に所属する研究者を対象に研究助成を実施する。研究助成の成果は、助成研究報告書を作成し、国会図書館に納本するとともに、TASC ウェブサイトで公開する。

3. 普及啓発事業

普及啓発活動は調査研究活動の成果や嗜好品に関する考察等を広く国民に提供する目的で実施するものである。2022 年度に計画する主な普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

① 「談」

様々な分野の研究者・有識者へのインタビューを通じて、時代と共に変化する社会の大きな流れを読み解き、次の時代を生きる価値観を模索するための研究誌として、年間3回発行する。

② 「TASC MONTHLY」

様々な分野の研究者・有識者による、現代に生きる人間及び社会に関わる論考やエッセー及び TASC の活動状況報告等を掲載して毎月発行する。

③ 「たばこ史研究」

大学等研究機関の研究者及び在野のたばこ史に関する研究者の論文等の発表の場として、年間2回発行する。

④ 「2021 年度事業概要」

2021 年度の TASC の事業活動状況をまとめた冊子を発行する。

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

定期出版物の最新情報や調査研究の実施情報・結果、研究助成の情報、その他 TASC に関する情報を適時発信する。

(3) 一般総合誌への広告掲載

月刊総合誌『文藝春秋』にて、様々な分野の学識者に対し自身の研究を通して「嗜好品」や「心の豊かさ（価値観）」等について語ってもらうインタビュー企画を年間6回掲載する。

4. 受託調査研究事業

現代社会の諸問題を研究領域としている学識者を探索する。

II. 博物館事業部門

【重点項目】

2024年度を目途とする博物館中期計画に基づき、更に魅力ある企業博物館を目指して、その役割・機能の一層の充実を図る。

1. 博物館機能の充実

- (1) 特別展・コレクションギャラリーを活用したたばこ及び塩の歴史・文化の発信を進める。
- (2) 4階収蔵庫の整理及び各種アーカイブの整備を進める。
- (3) 研究テーマ及び特別展のあり方等について、継続的な検討を行う。
- (4) JTとの協業体制を維持し、人材育成及び博物館において伝承すべき機能補完に取り組む。

2. 安定的な事業運営

- (1) 常にコスト意識を持ちつつ、メリハリある経費配分により、計画性ある事業運営を行う。
- (2) 職員のワーク・ライフ・バランスを重視した職場環境の改善を図る。

3. 効率的な広報活動の展開

- (1) 若年層をターゲットとしたSNSなどのWeb展開を含め、タイムリーかつ有効なメディアによる広報活動を実施する。
- (2) COVID-19を含む危機管理下における様々な対応ができるよう、SNSなど使った情報発信を行う。

4. 地域社会との良好な関係維持

行政及び近隣社会との良好な関係を維持しつつ、他博物館との連携を強化する。

【事業活動】

以下取り組みを進めるにあたり、COVID-19の状況を踏まえ、入館者・職員の安全に配慮した運営に努める。

1. 調査・研究活動

これまで取り組んできた「たばこと塩の歴史と文化」及び収蔵資料に関する調査研究という2つの大きなテーマによる構成は継続しつつ、新たなテーマを取り入れながら実施する。

2. 情報発信活動

- (1) 特別展5回を開催する。
- (2) イベント・講座
たばこ講座（10回程度）、古文献・古文書を読む会（毎月）、たばこ寄席（2

回程度)及び塩の実験イベント(夏季以外の3日程度)を開催する。

(3) 刊行物

「2021年度年報37号」を刊行する。

(4) 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ① 江戸時代のたばこ文化コーナー(6~8回)及びコレクションギャラリーの展示替を行う(3~5回)。
- ② 特別映画や特別展の内容に合った映画を上映する(土・日曜、祝日等)。
- ③ 図書閲覧室の円滑な運用とともに、図書資料データの入力及び配架整理作業等を進め、情報発信機能を強化する。
- ④ 団体見学者への展示案内や、多様な来館者へのサービスのあり方について、バリアフリーを意識した施策を行う。

(5) 周知PR

展覧会や所在地周知PRに加え、SNS(ツイッター)も活用し周知PRを行う。特に、新型コロナ禍の状況においても、その時々に応じたSNSの一層の活用を図る。

3. 資料収集・整理・保存

- (1) 収蔵庫内の整備及び収蔵資料のデータベース入力を行い、収蔵資料の保管・管理体制の確立をすすめるとともに、博物館に即したIPM(総合的有害生物管理)体制を堅持する。
- (2) 寄贈資料は、資料検討会で評価のうえ受け入れるとともに、寄贈者への適切なレファレンスを行う。優先度・必要度が高いと評価された資料は購入する。
- (3) ポスター、パッケージの実物資料やデータの収集をシステム化し、新製品の収集を継続する。
- (4) 資料の良好な保存のため、計画的に補修を行う。

4. その他の活動

- (1) 人財の育成・強化
職員の教育・研修
- (2) 総合案内・ミュージアムショップ
新たな来館者サービスや商品ラインナップの充実等、来館者満足度の向上を図る。
- (3) 地域との協調
 - ① 墨田区周辺の地域博物館、企業系博物館・史料室との連携
 - ② 「東京・ミュージアムぐるっとパス」(東京都歴史文化財団)への参加継続
 - ③ 墨田区をはじめとした官公庁等との良好な関係の維持・継続
- (4) 博物館実習の受け入れ(6大学、各校1名)